



# 城西大学 薬学部 薬科学科

## サフランで結ばれた城西大学と鶴ヶ島市 その始まりと今



ひまわり会の皆さんと薬学部の学生たち

サフランのめしべの柱頭は、料理のほか、くすりとしても用いられます。写真は鶴ヶ島市の特産物であるサフラン栽培の様子を見学して、実際にめしべの採取も行う体験をしたときのものです。

サフランのめしべの柱頭は、生薬（医薬品）として婦人病薬として用いられます。薬科学科の生薬学研究室では様々な種類の生薬を研究に用いますが、使用する生薬がどのように生産されるのか、実際に目にする機会はほとんどありません。サフランは、そのほとんどを輸入に頼っているのです。

今回は鶴ヶ島市のサフラン栽培現場を通じて、学生に生薬の国内生産の課題や実際の生産現場を肌で感じてもらうことが目的です。生薬を扱う学生にとって、研究材料を大切に、課題意識を芽生えさせるきっかけになればとの思いです。

学生たちは高級品であるサフランのめしべの柱頭を自ら採取することで、作業の大変さを実感することができました。また、毎年の気温状況を良く把握して開花をさせる必要があること、植物という生物を扱う難しさを通じて品質が安定したものを作る大変さや苦勞を学ぶことができました。

2013年4月3日、鶴ヶ島市・JAいるま野・城西大学・女子栄養大学などから構成される産学官の19人と各団体が参加して「鶴ヶ島サフラン・スーパーサポーターズ」が発足しました。会長には、白幡晶城西大副学長（現 学長）が就任しました。この組織は、鶴ヶ島市でサフランの特産品化をすすめ、栽培から販売に至るまでの活動を産学官の連携でおこなっていくための集まりです。そしてこの発足に先立つ約半年以上前から、城西大学現代政策学部のひとつのゼミの学生がサフランのめしべ収穫、休耕地への定植などの作業にたずさわっていました。

鶴ヶ島市は、城西大学と4月4日に「相互連携協定に関する基本協定」を締結しました。

（2018.12 広報課 城西大学ホームページから）

